



## 年 頭 所 感

商 工 組 合 中 央 金 庫

理 事 長 江 崎 格

平成18年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べて年頭のご挨拶とさせていただきます。

まず昨年のわが国経済を振り返りますと、年初から一進一退の状況が続きましたが、年央以降輸出が増勢に転じ、設備投資も堅調に推移するなど、景気は緩やかに回復を続けました。そうした動きは雇用や所得の改善を通じ個人消費にも及びました。デフレも徐々に解消に向かい、先行きに対する明るい見方が広がった一方で、原油をはじめとする素材価格の高騰が経済に与える悪影響が懸念されました。

今年の経済情勢を展望しますと、素材価格の行方等リスク要因を抱えつつも、

海外経済はおおむね堅調な推移が見込まれ、総じて企業部門の収益力が高まっていることなどから、わが国経済も緩やかな回復が続くものと思われます。

そうしたなか、中小企業の景況感についても昨年夏場以降持ち直したものの、改善の度合いは大企業に比べて緩やかで、地域や業種によるバラツキも目立っており、未だ景気回復を全面的に実感できる状況に至っておりません。

このような環境下、商工中金は、中小企業の皆さまの生の声を業務運営に活かしながら、総合的な金融サービスを安定的に提供することにより、中小企業がその企業価値を高め、持続的に成長するこ

とを支援してまいりました。

具体的には、「地域再生・活性化への貢献」や「セーフティネット機能の発揮」に加え、「中小企業の皆さまの資金調達多様化の支援（金融フロンティアの開拓）」などの政策的役割を積極的に果たしています。

まず、「地域再生・活性化への貢献」では、地域再生の実現がわが国の重要な政策課題となっていることを踏まえ、地域の基幹産業、地域経済に密着し重要な役割を担う中小企業の皆さまを支援し、その積み重ねを通じて地域における金融の円滑化、地域再生・活性化に貢献しております。

「セーフティネット機能の発揮」では、経済環境の変化により、一時的に資金繰りに困難を来している中小企業の皆さまへの安定的な資金供給、「金融フロンティアの開拓」においては、CLO（ローン担保証券）、売掛債権流動化などのほか、昨年10月に取扱いが開始された動産公示制度を活用したABL（流動資産一体担保型融資）にもいち早く対応するなど、過度に不動産担保や個人保証に依存しない金融手法の開発・普及にも積極的に取り組んでおります。

次に、昨年議論された政策金融改革に

つきまして、述べさせていただきます。

昨年11月29日、「政策金融改革の基本方針」が経済財政諮問会議において決定され、商工中金につきましては、財務基盤整備等のための移行措置が講じられた上で、所属団体中小企業向けのフルバンキング機能を行う機関として完全民営化するとの方針が示されました、

これまでの政策金融改革に関する議論の過程におきましては、出資者、お取引先、中小企業関係団体の皆さまを始め、多数の方々より絶大なるご支援を賜りましたことを、まずもって、心より感謝申し上げます。

今回示された民営化の方向につきましては、商工中金が、他の政策金融機関と異なり、昭和11年の設立当初より中小企業組合と政府が共同で出資した金融機関として運営され、政府からの収支補填を受けることなく健全な経営が行われていることから、現在の機能を維持しつつ、さらに自立化を進めるべきであると評価されたものと受け止めています。

今後、政府において基本方針に沿った詳細な制度設計が行われ、具体的な移行措置が講じられた上で、平成20年度から新たな経営形態になる予定です。

なお、「政策金融改革の基本方針」に

において「現に貸付等を受けている者及び発行債券の所有者に弊害が発生しないようにする」と示されておりますので、お借入・債券貯蓄取引等ご利用いただいているお取引先の皆さまにおかれましては、引き続きご安心してお取引いただきますようお願いいたします。

商工中金といたしましても、これからも中小企業組合と中小企業の皆さまの成長発展を支援するとともに、お取引いただいている皆さまから、より信頼される金融機関を目指して、役職員一同決意を新たに取り組んでまいりますので、今後とも、格別のご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆さまのご繁栄とご健勝をお祈りいたしましてご挨拶いたします。

